

## 第67回全国高等学校PTA連合会大会 静岡大会 参加報告書

平成29年9月7日

桑原 淳一

日時 平成29年8月24日(木)～平成29年8月25日(金)

場所 静岡県小笠山総合運動公園エコパ エコパアリーナ

参加者 八王子東PTAを代表して、林(広報委員長)、桑原の二名で参加しました。

静岡大会テーマ 「有徳の人」づくり ー未来のために行動する「一人」を育てよう

※「有徳の人」づくり は静岡県の教育方針：個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し行動する『有徳の人』の育成が基本目標。

8月24日(木) 初日

### 1. 高校生アトラクション 静岡県立横須賀高等学校 郷土芸能部 9時～9時30分

江戸時代、遠州横須賀(現静岡県掛川市横須賀)第十四代城主・西尾隠岐守忠尚公(1689～1760)が参勤交代で江戸に在った時、その家臣に江戸の祭礼囃子(江戸で風靡されていた葛西囃子)を習い覚えさせ、遠州横須賀に伝え、古来のものも取り入れて独特の名調子を作り出したものと伝わる「三社祭礼囃子」を高校生の手で伝える活動をしています。軽快なお囃子の演奏とおかめ、ひょっここによるユーモラスな踊り、少し幻想的な般若の舞が開会前の緊張した雰囲気をもたせてくれました。



## 2. 開会式

開会式では来賓として林芳正 文部科学大臣や川勝平太 静岡県知事が来場され祝辞を述べられました。



林文部科学大臣からは、『教育再生は政府の重要課題であり、高等学校教育と大学教育の両者を接続する大学入学者選抜を連続した一つの軸として一体的な改革する高大接続改革を進めている。また、「有徳の人」づくりには地域と学校の共同活動による連携が必要であり、PTAの活動は非常に重要である。』とのお話をされました。

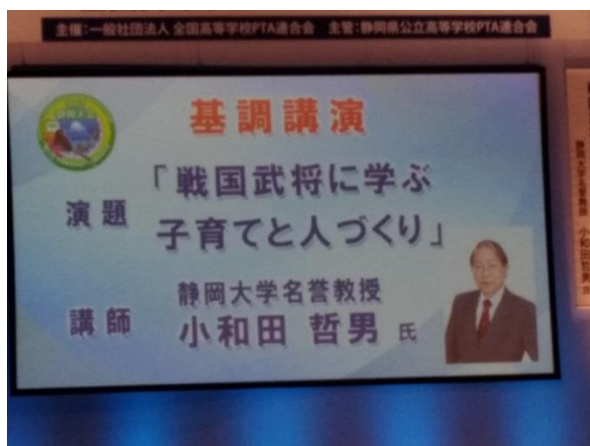
川勝県知事からは、『県の教育方針である「有徳の人」づくりを仁義礼智信忠孝悌 仁は思いやり、慈しみの心、儀は道理、道徳にかなうこと、礼は守るべき作法、敬うこと、智は物事を正しく判断する力、忠は真心、君主に仕える道、信はあざむかないこと、誠実孝は父母によく仕えること、悌は兄弟の仲がいいこと 以上は「徳」であり、文科省の学力向上よりも大事なことであり』とお話しされたため、林文部科学大臣が苦笑いを浮かべておられました。

## 3. 基調講演 10時50分～12時00分

地元、静岡大学名誉教授 歴史学者 小和田 哲男 氏より

「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」を演題として講演されました。

注意：講演者の発表内容を分かり易くするため、報告者の判断で補足追記した部分があります。



(前段)

戦国の村を研究しているが、今年のNHK大河ドラマは2万石の小領主が主人公のため、通常の大河では描かれることがない村人との関係が濃密に描かれており、隠田、徳政令、検地などが出てくるので、歴史学者として楽しみな大河になっている。

また、大河ドラマ他のTVドラマの時代考証をしている。時代考証は演出の間違いを指摘、訂正する事が仕事である。例として、あるドラマの台本に「豆鉄砲をくらった顔をして」とのセリフが入っていたが、この時代にこの地域には鉄砲が無なかった事を指摘して台本変更させた。

しかし、時代考証者の仕事は演出家と行う指摘、訂正の交渉は結構シビアである。

例：織田信長は浅井家が籠城する小谷城攻めのおり、お市と娘（茶々、初、江）が落城を前に場外に落ち延びる時、お市が城を振り返る場面で小谷城が炎上している設定になっていたが、歴史的にはこの戦いで小谷城は燃えていないことが史実で分かっており、訂正するように進言したが、プロデューサーからお市が小谷城を振り返った時に、城が燃えていないと落城の雰囲気が出ないので、燃えている設定にしたいとの話があった。時代考証的に認められないと回答したが、少し燃えている程度の演出にするから認めて欲しいと何度もお願いされたため根負けしてOKを出したが、実際の放送では小谷城が派手に燃えているのを見てビックリした。

(戦国時代の学校事情について)

戦国時代の学校としての原型は「足利学校」と言われている。

足利義兼が創立し、上杉憲実が快元を招いて学校を整備したと考えられており、「学校」と言っても、現代の感覚で言う学校そのまま当てはめることはできない。

というのも、生徒は禅僧に限られていた。

つまり、お坊さんでなければ入学できなかったのだ。そして、彼らが学んでいたのは儒学だった。中でも重視されていたのは“易学”である。

当時、戦国武将は“占い”によって合戦日や方角を定めていた。かなりの験をかついでおり、例えば犬が軍の右から左へ横切れば吉とし、その逆は凶とされた。「軍師」の言葉があるが、それは「占い師」と言っても過言ではない。足利学校で学んだ生徒は、戦国武将のもとへ招かれていった。

合戦は「武」だが、また「知」でもある。単に槍刀を振りかざせばいいというものではない。人智を越えたところのパワー、あるいは験によって行われていた。

戦国武将に優遇されたことを考えると、足利学校は軍師養成所の一面もあった。

今川義元は師であった僧侶の雪斎が軍師となった。雪斎は今川家の人質時代の徳川家康（竹千代）も教えており、この時の教えが後の天下統一の元になったと考えている。上杉謙信を育てたのも僧侶である天室光育に兵法を教わっていたのが、後の軍神となった大きな要素である。同様に東北の勇、伊達正宗も同様に僧侶 虎哉宗乙に師事した。また、大河「直虎」の師であり叔父でもある南溪瑞聞も元々は今川の血筋であり、幼い頃からお寺に預けられており、その教養で直虎のブレーンとしての役割を果たした。足利学校は武田信玄にも認められるところであり、いま風に言えば、抜群の就職率を誇り、信頼と実績のある名門校だった。徳川家康のブレーン天海のように、政治的権力を持つ者もいた。

ちなみに、在学中は禅僧でも、卒業して還俗するのは自由だった。入学したければ、一旦お坊さんになればよい。室町幕府最後の将軍となった足利義昭も仏門に入っていたが、三好三人衆に兄義輝が暗殺されたことを受けて奈良を脱出して還俗し、後に信長に擁されて上洛して将軍となった。

また、当時の武将には最低限の教養が必要とされていた時代であり、このため武将が子供を入学させて四書、五経、和歌他、戦国時代の武将として要求された教養を学ばせた。

もう一つの理由は世継ぎ問題が起こらないように、三男以降をお寺で僧侶として修行させた。また、当時は子供の一人が出家して僧侶になれば九族が天国に行けると信じられており、武将は戦いで人を殺すため、死後地獄に行くことを避けるために末子を寺に預けた。

以上が戦国時代の学校事情である。

（戦国時代 その他の学びについて）

その他の学びには「武辺咄」があった。これは先輩武将が後輩武将に成功だけではなく失敗も体験談として伝えた。武道に関する体験などを内容とする咄で、戦国時代に大名に仕える御伽衆が主としてこれをおこなった。武将たちは武辺咄で諸国の動静を

知り、将卒の思想統一にもこれを役立たせた。

伊達正宗の長男 伊達秀宗が家臣の子供たちと「武辺咄」を聞いている途中で席を立ったとの報告を受けた伊達正宗が秀宗に理由を聞いたところ厠に行ったと言ったため、「武辺咄」は「ゆばり」（おしっこを漏らす）をしても聞けと諭した。この出来事からも当時の武将にとって学ぶべき教養として「武辺咄」は大事だったことが分かる。

（戦国時代 人を育てる、活かす）

「武辺咄」はいつの頃から口伝から記録を取るようになった。

この記録は現在でも、武将は戦い、外交、内政他の成功と失敗を「武辺咄」の中に名言、格言として残っている。

徳川家康の名言（一部）

- ・人を用いるには、すべからくその長ずる所を取るべし。人それぞれに長ずる所あり、何事も一人に備わらんことを求むることなかれ
- ・いさめてくれる部下は、一番やりをする勇士より値打ちがある
- ・人は負けることを知りて、人より勝れり
- ・愚かなことを言う者があっても、最後まで聴いてやらねばならないでなければ、聴くに値することを言う者までもが、発言しなくなる

これらは、家康が三方ヶ原の戦いで武田信玄に大敗して逃げる途中、複数の部下が身代わりとして犠牲になったことから浜松城に逃げ帰ることが出来た。

これを境に徳川家康は家臣を宝として大事にするようになったと言われており、これにより強固な家臣団を作り上げて天下統一を果たすことになるが、その生涯の中で後世に伝わる名言、格言が生まれた。

家康は人材の活用においても適材適所の配置、抜擢を行っている。

武田家が滅亡した天目山の戦いで、重臣の中で最後まで付き添って討死した土屋昌恒の息子を探し出し、息子の徳川秀忠に預けて家臣としたが、その孫は老中になった。

家康は「忠臣の子は忠臣」との考えがあり、織田信長に知られると徳川家が危うくなる危険を冒してでも人材発掘を強行した。

また、家康は秀忠の重臣となる人材の育成も積極的に行っている。ある時、秀忠の側近に空きが出来たため重臣が相談したが決まらず、後の老中土井利勝が家康に相談すると、家康は一人の武将の名前を出したが土井利勝は知らなかった。家康は土井利勝に対して、その者は名前の知られていない者ではない、自分の所に入出入りしている者だけを重用したら駄目だと叱責し、秀忠を支える家臣として彼を指導している。

織田信長も武勇に優れた者だけを重用せず、多彩な人材を用いている。

前田利家と木下藤吉郎（豊臣秀吉）を比較すると武勇は圧倒的に利家が優れていたが、出世競争では藤吉郎が先んじた。これは藤吉郎が小者として仕えていたことから、有名な草履取りだけではなく、轡取りとして信長の遠出にも同行したものと考えられる。この事から信長は藤吉郎が針売り行商時に会得したと思われる話術の才能他を見出し、当時苦しんでいた美濃攻略に藤吉郎を使おうと考えたのではないかと思われる。このように信長の天下統一に向けた急成長は抜擢による登用が大きな要因である。

北条早雲の息子、北条氏綱も積極的に人材を集め、また抜擢したことで知られる。後北条家に在郷の武士などが奉公衆や評定衆として取り立てられるようにしたのが氏綱である。特に個性的な若年者の才能を見抜き、取り立てた例が数多く見られる。彼が抜擢し登用した者は世代的には次代・氏康と同年代であることが多く小田原征伐前後まで活躍していた者さえおり、これが北条5代100年続いた要因でもある。

（まとめ）

戦国時代に活躍した武将も成功、失敗から学んだことを糧として自分磨き、人材の登用により新しい考え方を取り入れている。

学校教育も重要であるが、現代でも生涯教育の中で自分磨きをした人物が成功している。上述の通り人を育てるためのヒントが歴史には沢山あり、歴史を学ぶことで今回のテーマである「有徳の人づくり」の一助になると考える。

#### 4. 昼食&アトラクション 12時～13時

##### アトラクション

##### ①静岡県磐田北高等学校 箏部（琴箏部）

琴で伝統的な曲目だけでなくポップスも演奏されて、お弁当を配りでざわつく会場の雰囲気を和ませてくれました。



##### ②静岡県立掛川東高等学校 吹奏楽部

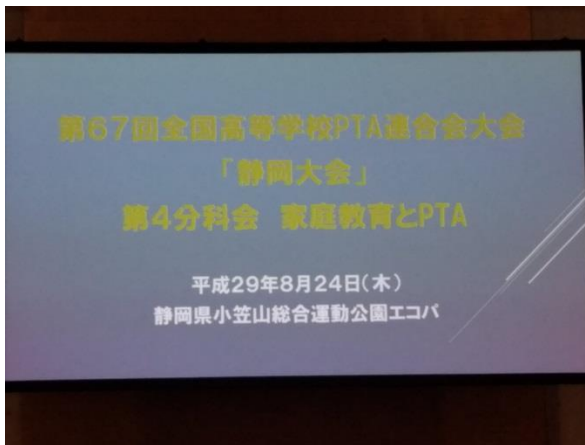
演奏とマーチングで「リバーダンス」他テンポの良い曲で会場を盛り上げました。



昼食（お弁当）の写真です。



5. 第4分科会 静岡県小笠山総合運動公園エコパ エコパサブアリーナ  
14時～16時30分



家庭教育とPTA「有徳の人」を育てる家庭教育の充実

第四分科会は、学校教育とPTA～「有徳の人」を育てる家庭教育の充実～のテーマで開催されました。

所感：いずれも子供たちに親の背中をみせることで子供に成長を促して自立に導き、同時に家庭での会話を増やすことで親子の信頼関係を深めていることを強く感じさせる発表でした。また、PTA活動をPTCA（C：コミュニティ）として地域とのかかわりを強く意識して、地域住民と共に生徒、保護者も参加する活動を数多く企画して、人とのつながりから生徒、保護者の人間力を向上させる活動をしている尼崎稲園高校の活動は強く印象に残りました。

事例発表として下記4校より発表がありました。

- ①北海道室蘭清水丘高等学校は「親も楽しむ」をキーワードとしてPTA活動をしている。文化祭の三日目に開催されるバザーに役員だけではなく保護者も協力員として参加し焼き物（焼きそば？）、お菓子等の販売を実施した。この活動では親が楽しんで準備、運営することで保護者同士のコミュニケーションが活発になることでPTA活動に参加する保護者も増えるとともに、親が楽しんで文化祭に向けて活動していることを子供達



は敏感に感じおり、家の中でも文化祭という共通の話題があるため、子供と共通の話題で話す機会が増えてコミュニケーションの機会が増えた。このことから、保護者が同じ目線で子供達と接して、見守ることで子供の成長を助けることが出来るのではないかと感じている。

②東京都立板橋高等学校は「つながり」をキーワードとしてPTA活動をしている。

特にPTAのASSOCIATIONを「つながり」として強く意識して活動している「板高シンポジウム」はPTAが主催し、生徒、教職員（校長、副校長他）、保護者が参加して、その時々タイムリーなテーマを設けて3者の立場から話し合う場を年3回設けている。平成22年開始当初は生徒教職員とも薄い反応だったが、関心の高いテーマの選択、ポスターをPTAで製作して参加を呼び掛け、先生には一人一人に案内をすることで、現在は生徒30名、先生10名、保護者10名が参加する規模になっている。

この結果、生徒の自主性も育ち、自身の考えを言葉に出来る生徒も多く育ち、昨年は全国ビブリオバトル（書評大会）で優秀賞を受賞する生徒も出ている。

その他、年3回ボランティア清掃を生徒の自主性を大切に有志により実施しているが、現在は毎回100名を超える生徒が参加するイベントとなっている。

これらの活動を通じて、子供達や学校とのコミュニケーションの機会も深まり、大人が同じ目線で子供達と接し、見守ることで子供達の成長を助けられると感じている。

③兵庫県立尼崎稲園高等学校は「伝える力」をキーワードとしてPTA活動をしている。

特にPTCA（Parent-teacher-community-association）として地域とのかかわりを強く意識して地域住民と共に生徒、保護者も参加する

- ・園田カーニバル（地域の幼稚園～高校までのPTA、生徒が集まりカーニバルで活動）
- ・水辺祭り（川辺の清掃活動に生徒、保護者が参加）
- ・地球ステージ（上映会のお手伝い）

等を数多く企画して、人とのつながりから生徒、保護者の人間力を向上させる活動をしている。地域活動と校内活動を通じて

「ゆっくりと人々との関わりの中で育まれて行く」

そのような環境づくりを行っていくことが大人の役割と感じている。

④香川県立高瀬高等学校は「見守り」をキーワードとして活動している。

高瀬高校はPTA役員34名で運営され、役員は研修委員会、広報委員会、厚生委員会、生活指導委員会、進路委員会 必ずいずれかの委員会に所属して活動している。進路委員会では「親子で行くオープンキャンパスツアー」を企画、運営している。

これはPTA役員会で「子供には早くから自分の進路を考えて夢を実現して欲しい。親は出来る限りその応援をしたい」との意見が出て一昨年から実施している。

PTA活動とは別に、高瀬高校では本年度から全学年でクラウドプラットフォームシステムを導入した。（ベネッセで開発したシステムを利用、通信はソフトバンク）

このシステムにより自宅のパソコン、スマートフォンから

- ・子供の学習時間の確認
- ・子供の成績の確認（定期考査、校外模試の成績等が過去のものを含めて確認）
- ・学校から情報提供、諸連絡（定期考査時間割、諸行事の案内、配布物、緊急連絡）
- ・各種アンケート調査、学校評価等への回答

また、毎日の学習時間とコメントを入力すれば、担任の先生が入力を確認してコメントを返してくれるため、生徒の学習意欲向上につながっている。

保護者が積極的にPTA活動に参加している姿を見せることで、子供達は親の人間力を感じる。

また、親が自分達を応援していることを感じることで人間力の向上につながる。

助言者として参加された静岡産業大学 漁田俊子教授からは「親の背中を見せるのが家庭教育」、「三歳までに親と子の中で作られる愛情（愛着）、信頼感で子供の人生の座標軸が作られる」との話がありました。

また、静岡大学 石田純夫講師からは「親が元気ならば子供も元気、親がエンジョイしなければ子供はついてこない」との話がありました。

8月25日(金) 二日目

1. 高校生アトラクション 9時～9時30分

静岡県立清水南高等学校（中高一貫校）静岡県立浜松西高等学校（中高一貫校）  
両校の管弦楽部による演奏

総勢60名を超える部員による精緻で圧倒的な演奏で連日35度を越える猛暑で疲れた体と心を癒してくれました。



静岡県立天竜高等学校

郷土芸能部による太鼓と舞踊

会場の空気を震わす大太鼓と天狗の舞で会場を盛り上げてくれました。



## 2. 記念講演 9時40分～10時50分

講演者 笈利夫氏（俳優）静岡県浜松市出身、静岡県立浜松東高等学校卒業、  
大阪芸術大学卒業

題目「笈利夫 これが俺の生きざまだ！」

所感：対談形式であったこともあり、笈利夫さんの生きざまが余り引き出せず残念な  
内容の講演となりました。

注意：地元アナウンサーと対談形式であちらこちらに話しが飛んだため、分かり易く  
するために話の順序を調整し、まとめ直して記載してあります。



### ①子供時代はヤンチャだった

少年時代は突発的に大声を出すような子供だった。

小学校で突然校庭に飛び出し放送禁止用語を大声で叫ぶ。自宅の隣にある女子高で部活をしている女子高生に向かってロケット花火を打ちこみ、女子高生が逃げ惑うのを見て喜んでいるような子供だった。このため、親が心配して御祓いに連れて行かれたことがある。

しかし、あるとき女子高の校庭で友達と野球練習でノックしていたが、自分が打った球で校舎のガラスを割ったため女子高の校長先生に謝りに行ったが、その事が通っていた小学校に連絡が行き翌朝の全校生徒の前で褒められたことがある。

家族構成は四人兄弟で長男とは19歳離れており直ぐ上の次男とも12歳離れている。家族から甘やかされて育てられたため、上記のような自由奔放な性格になった？

#### ②自分から始めることが大切

撮影に行く時には必ず菓子折り10箱位を持っていく。昔は制作サイドでお菓子、飲み物を用意していたが、制作費が抑制される中、お菓子等が用意されることが少ないので自分で買って持って行くようにしている。そうすると共演者が気付いて日に日にお菓子が増えていく。何かを変えようとする時は自分から始めることが大切である。

#### ②こだわり

- ・映画、ドラマに出演しているときは役柄にもよるが、敵対する相手役とは一切話さないようにしている。親しくすると役柄のときにセリフに愛が入ってしまう。
- ・映画に出演するときの衣装は自分のスタイリストと相談して一着作り、監督と相談してなるべく全てのシーンで同じ衣装を着ている。予算の関係で撮影日程が短縮されて着替える時間が勿体ない。

#### ③勉強するようになったきっかけ

- ・小学校時代は全く勉強をしなかったため、授業中に指名されて黒板に回答を書く時に何も書けなく先生にチョークで頭を小突かれる生徒だった。

小学校高学年は担任の先生に年賀状を送るのがしきたりのようなものがあった。

6年生の時に先生に年賀状を送ったが先生からは年賀状が来なかった。(後に、その年は喪中だったことが判明した)

成績の悪い生徒には返事も来ないのかと思い、中学校では発奮して1日5時間猛勉強するようになり、運動はバスケット部に所属して頑張った。

- ・中学時代は英語、数学、国語の勉強は出来たが、理科と社会がどうしても頭に入らなかったため苦手な科目だった。

このため高校受験では片肺受験となり、それなりの高校に入学することになった。

勉強は5教科万遍なく勉強したほうが良いと後悔の言葉？

#### ④不毛な高校時代（職業高校で営業科？に入学）

- ・高校時代は年間250日位遅刻していたが、バスケット部の練習だけはコーチの先生が怖かったこともあり欠かさず参加する毎日。また、中学時代は女子にもてていたが、高校は全くもてず、不毛な高校生活を送った。

#### ⑤将来の目標を持ったキッカケ

- ・中学の卒業式に同級生の前で将来俳優になると言った思い出がある。
- ・高校では演劇部に入ろうと思ったこともあったが、まだ早い、今は体を鍛える時期だと思いバスケット部に入部した。
- ・高校時代はアイドル好きでデパートのラジオのサテライトスタジオがあり、毎週月、金でアイドルが来たため、学校を早退して見に行った。

- ・高校のバスケット部を引退した時に演劇部の友達に将来は俳優になると告白

#### ⑥不真面目な大学入試勉強と大学入学

- ・高校時代は鉛筆を転がして出た数字で回答を決めて正答率が上がった、下がったといった不真面目な入試勉強をしていた。
- ・将来の目標を実現すべく大阪芸術大学を受験、今は倍率が高いが、当時の入学試験は面接と論文しかなかったため入学できたが。  
当時は卒業すると自動的に俳優になれると信じていた。

#### ⑦俳優として成功するまで

- ・俳優で食う事を考えると駄目、それであれば誰かに食わせて貰うことを考えたほうが良い。
- ・芸人さんが売れるまでの極貧生活を番組で語っているが、特に食生活でマヨネーズをすすって生活していたという人がいる。実際にはアルバイトをすればある程度のお金は入ってくるし、玄米を食べていれば栄養とエネルギーを摂れて生きていけるはず、色々な欲望があり、それにお金を使うから極貧生活になるのではないか？
- ・夢見たいなことを考えているから将来に向かって進める。但し思っているだけではなく、間違っている自分でも自分で目標に向かう道順を考える必要がある。
- ・自分は大学を出れば自動的に俳優になれると思っていたこともあり、自分で決めたカーナビの設定で大学先輩に付いて歩き、優秀な演出家と会い、流されるように東京に出てきてチャンスを掴み俳優になることが出来た。

### 3. 分科会報告 11時～11時20分

初日(24日)午後に分科会が開催され、概略報告が全国高等学校PTA連合会の各理事から発表されました。



#### ①全国高等学校PTA連合会研究発表 ネットトラブルの予防と対策

基調講演では、

人は無意識に行動する確率は92%であり感情で動く、そのためスマ

ホに依存する生徒は自分で気付いて止めることが大事。保護者は子供が携帯の使用を午後 10 時に終わらせたい場合には、10 時に終わらせなさいと言うのではなく、10 時に終わらせるにはどうしたら良いかを子供に考えさせることが必要。

パネルディスカッションでは

保護者からは子供が安易に写真を SNS 等に掲載するこ

との危険性、アダルトサイトへのアクセスの危険性について危惧しているが、それを直接子供に伝えるのではなく、トイレにメッセージを貼る事で伝えている。

生徒代表からは以前ゲームに嵌っていたが現在は止めた。しかしユーチューブは今でも止められない、止められないシステムになっており、現在は止める努力をしている。先生からは携帯には光と影があることをしっかり伝えることが大切、子供は好奇心でサイトをどんどん開いていく傾向があるためトラブルに巻き込まれる可能性が高い、トラブルになった時には保護者がしっかりとトラブル内容を振り返り、子供と話し合いをして意見する必要がある。最終的には自分をコントロールする力を養うように教育して欲しい。

#### ②第 1 分科会 学校教育と P T A 学びの場の充実

P T A は生涯学習の場であること、P T A の O G、O B 会を作り現役をサポートする。地域の活性力を高める社会活動として P T A 活動は有効である。

また、保護者が P T A 活動を通じて「有徳の人」を育てることが必要。

保護者の P T A 活動は楽しく、そして元気に行い、親の生き生きした姿が必ず子供たちに良い影響を与える。但し一方通行にならない活動を意識して生徒に感心を持ってもらう必要がある。

まとめると、私たち保護者自身が積極的に学校や子供たちにかかわり、子供と共に学び成長すること、これこそが子供達に良い影響を与える。

#### ③第 2 分科会 進路指導と P T A 希望進路の実現

山形県立鶴岡南高等学校では、生徒の進路指導のために各分野で活躍している方を講師に招き生徒と保護者を対象に講演会を実施。

岐阜県立中津高等学校では、保護者のための進路サポート勉強会を年 8 回から 9 回実施し、各回 100 名以上が参加。

大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校では、保護者と生徒と一緒に参加する大学見学ツアーを実施。

宮崎県立高鍋高等学校では、社会人を講師に招き職業選択の理由、働く喜び、厳しさ等話をってもらう高鍋高校わくわく講座と県内の優良企業の見学を実施。

以上 4 校の発表があった。

また、会場からは高校の知名度を上げるためにはメディアの活用が良いとの意見がでた。

助言者からは、

「有徳の人」を育てる三要素のうち、PTAが行う挨拶運動は人とのかかわりあいを大切にするという「有徳の人」の二つ目の要素につながることで、文化祭におけるPTAの出展や生徒のボランティアに保護者が参加することは、よりよい社会づくりに参加するという三つ目の要素につながると指摘があった。

親子で一緒に大学を見学した後に振り返りの期間を設けて自分以外の参加者の気付きを共有することが大切。また、社会人を講師として招く講演会では事前発表と事後発表、生徒同士が話し合うことも有用であると指摘があった。

#### ④第3分科会 生徒指導とPTA 命を守る教育の推進

千葉県立君津青葉高等学校

高校生の健全育成のために保護者が来校する機会を増やす取り組みして、親子の会話のキッカケが増えた。

富山県立富山西高等学校

子供たちへのかかわり方の再考をテーマに既存の活動を見直し、挨拶運動や交通安全指導などPTA活動の活性化につながった。PTA活動全体として焦らず、比べず、諦めずの言葉が印象に残った。

愛知県立春日井工業高等学校

学校独自の自転車運転免許制度に保護者も積極的に参加することで、子供たちの自覚と責任意識が向上に効果があった。

熊本県立天草工業高等学校

子供達の成長サポートをテーマに積極的に新しい取り組みを行い、具体的には親子とのメッセージカードプロジェクトでは普段伝え難い照れくさい親子の思いをカードに記入することでお互いを知ることが出来た。

以上4校の発表があった。

助言者からは

各校ともPとTで子供の教育を行っており自立への道へとつながっている。安全安心を与える環境づくりは先ず学校が主体となりますが、保護者が加わり、親の力を見せることでそれは深まる。

#### ⑤第4分科会 家庭教育とPTA 家庭教育の充実

詳細報告済みのため省略

#### ⑥特別第1分科会 防災・減災教育の推進 防災・減災能力の醸成

基調講演では、

- ・最近聞かれるようになった減災という表現は、これ位やっておけば

ある程度防げるといふ甘えにつながる。原点に立ち返ってあくまでも被害ゼロの防災を目指すべき。

- ・想定外という言葉、これは想像力の欠如が原因、まれにしか起こらない災害を如何に自分自身で想像できるかが防災対策の鍵となる。
- ・自助、共助、公助を並列の表現することが多いが、先ずは自助、自らの命は自ら守る。次に共助、地域での助け合い。そして最後にそれを行政がしっかりと支える公助、行政に頼ることなくこのような意識を持つことが大事。

パネルディスカッションでは

災害時に主体的に行動できる人材育成が必要、高校生には自分を守り、地域を守るリーダーになって欲しいと期待する声が上がった。それに答えるように岩手県の高中生との交流体験を交えた高校生パネリストの力強いコメントに感動した。

加えて彼らは、自分たちは被災者との交流を通じ地域防災に強い意識を持ったか、回りの若者にも伝えていかなければならない、それが辛い体験を聞かせてもらった僕たちの責任だと語った。

#### ⑦特別第2分科会 グローバル教育とコミュニケーション能力の育成

基調講演では

現在の日本の外に向けたグローバル化、国際貢献活動、内に向けたグローバル化、他文化との共生にふれ、J A I C Aなど多くの予算をかけた国際貢献も重要であるが民間で行う様々な活動が大切。グローバル化に対する教育については、社会全体のグローバル化に教育が追い付いていない。2020年から変更される大学入試制度において英語試験も対象となっており、入試制度が変われば高校教育も変わり、大学と企業の連携が行われるようになれば高校、大学も変わる。

また、今の教育現場の現状について、小学校での英語教育は現状上手く行っているが、中学校、高校ではこれまでの入試対応英語教育の上からコミュニケーション能力を乗せようとしているので、この部分はなかなか上手く行っていない。

パネルディスカッションでは

会場全員が英語による5行で自己紹介を行った。5行での自己紹介は引込み思案で英語が苦手な日本人でも簡単に行える。一行目が挨拶、二行目が名前、三行目、四行目が趣味や好きなことや苦手なこと、五行目が最後のありがとうとなる。

パネリストからはそれぞれ自分で出来るグローバル化への目標、思いを語ってもらった。

助言者からは

外国語が出来るからそれに対応した仕事を選ぶのではなく、先ずは日本人として、日本の仕事がしっかり出来るように学び、これから益々進む人口減少社会において、小さくても輝ける日本を作っていって欲しいと語った。



4. 閉会式 11時20分～12時

- ・大会委員長の挨拶（苦勞が多かったためか途中で涙を見せられました。）
- ・大会委員長から来年度開催地佐賀県大会委員長へ大会旗を引き継ぎ
- ・来年度大会委員長の挨拶
- ・閉会宣言

以上